

「P I 外環フォーラム in 練馬」の概要について

1. 開催日時 平成 16 年 7 月 30 日（金）午後 6 時 30 分～ 8 時 30 分
2. 開催場所 練馬区役所本庁舎アトリウム地下多目的会議室
3. 出席協議員 岩崎協議員（区民）・武田協議員（区民）・湯山協議員（区民）
川瀧協議員（国）・山本協議員（国）・道家協議員（都）
宮良協議員（都）・平野協議員（区）
4. 参加者 82 名
5. 議 事 外環計画概要説明（国）
練馬区取り組み方針案説明（区）
協議員意見発表
参加者意見紹介（当日配布した意見・感想票にて集約）
6. その他 事前周知方法 区報、ホームページ

7. 各協議員からの意見（要旨）

国土交通省協議員からの意見

- 外環が昭和 41 年に都市計画決定されて以来、40 年間にわたり計画がとまっていることについては、練馬区民には大変不便、心配をおかけしており、大変遺憾なことである。
- 関越道、外環が当該地区で止まっているため、自動車が一般道路に降りてきて、谷原の交差点や環八が渋滞しているため、外環の整備によって、これら地域の渋滞の解消にかなり機能する。

東京都協議員からの意見

- 外環が整備される場合、都民全体の利便性の向上を考えると、インターチェンジは必要不可欠である。
- 地域の利便性や消防活動などの防災対策、歩行者が安心して歩けるため等から地上部の道路は必要である。

地元協議員からの意見

- 設置要望のあった青梅街道 IC は、さらに地元の意向を把握していくという方針を、区は無視している。
- 練馬区が外環道に関する取り組み方針を決定する前に、区民、特に外環 IC を含む予定地周辺地域住民に対し十分な説明及び意見聴取の機会を設けることを強く要望する。

- 練馬の実態をよく研究し、過ちを二度と犯してはならないという視点で提案をし、協議会としては練馬問題を検証してみようということで3回から4回論議を行ってきた。
- 国と都からの論議をするに足るデータはいまだに明示されていない。
- 40年もの長い年月に建築制限が課せられて、老朽化する家屋の建てかえは規制があり、商店街の将来設計も立てられず、後継者の育成もままならない。
- 土地利用・道路の交通網・防災などを内容とする、上石神井まちづくりに関する提言書を平成16年7月に区長に提出した。

8. 来場者からの主な意見

- 何十年も待たされている。このような状態では、さきの計画が立ちいかない。外環は必要な道路である。一日も早く着工してほしい。
- ICおよび大深度による外環も利便性のみを主張し、これらに伴う悪影響がなんら発表されていない。非常に不公平な主張である。よって、計画自体反対である。
- IC、上部の建設は、関係住民の立退き戸数を増加させ、都市計画道路の変更など、手続きに何年もかかり、外環そのものの実施も大幅に遅れ、費用もかかる。
- IC予定地域に在住しているが、環境悪化が心配である。できるだけ最新の技術を使って、現在以上に良い環境を作り出してほしい。
- 上石神井駅周辺のまちづくりについては、外環と切り離して考えるべきである。
- 外環整備を進めたい人が、その利便性とか効能とか、おいしい話をいくら並べても、信じられるものではない。直接関係のない区民にアンケートを行い、賛成が多かったとしても、それは民意を反映しているわけにはならない。
- 地元へきちんと説明すべきである。まず「建設ありき」の姿勢がおかしい。

(練馬区都市整備部交通企画担当課作成)